

## 特集

# 序文 アレルギー疾患医療拠点病院 5 年間の 活動とトピックス

松永佳世子\*

## はじめに

アレルギー疾患対策基本法は 2014 年 6 月 27 日 公布, 2015 年 12 月 25 日 施行された。本法は, アレルギー疾患に対する対策の必要性を法的に サポートすることを目的とし, その対象疾患は 第 2 条で, 「気管支喘息, アトピー性皮膚炎, アレルギー性鼻炎, アレルギー性結膜炎, 花粉症, 食物アレルギーその他のアレルゲンに起因する 免疫反応による人の生体に有害な局所的又は全 身的反応に係る疾患であって政令に定めるもの」 となっている。

## I. 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院 とは

愛知県は 2018 年 10 月 1 日, アレルギー疾患を 有する人が, 住んでいる地域にかかわらず, 等 しく適切な医療を受けられるよう, アレルギー 疾患対策の中心的な役割を担う「愛知県アレル ギー疾患医療拠点病院」(以下「拠点病院」と称す) を指定した。拠点病院の役割は, (1) 重症及び難

治性アレルギー疾患の正確な診断・治療・管理, (2) 患者やその家族, 地域住民に対する適切な情報 の提供, (3) 医療従事者等に対する人材育成, (4) アレルギー疾患の実情を継続的に把握するた めの調査・分析, (5) 学校・児童福祉施設等にお けるアレルギー疾患対応への助言・支援とされて いる。また, 拠点病院, 医師会, 市町村, 患者家 族会などを構成員とする「愛知県アレルギー疾 患医療連絡協議会」を設置し, 拠点病院を中心 とする診療連携体制の在り方を検討するなど, ア レルギー疾患対策の推進を図ることとなった。そ して, 拠点病院には, 藤田医科大学ばんだね病 院(愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会事務 局担当), 愛知医科大学病院, あいち小児保健 医療総合センター, 名古屋市立大学病院, 名 古屋大学医学部附属病院, 藤田医科大学病 院の 6 病院が指定されている<sup>1)</sup>。

## II. 激動の 5 年間の活動と診療の トピックスはなにか?

2018 年 11 月 12 日に第 1 回愛知県アレルギ ー疾患医療連絡協議会が開催され, 6 つの拠 点病院において, その役割に沿った多様な活 動が開始された。しかし, 2020 年 1 月 15 日 に日本国内ではじめての新型コロナウイルス 感染症(COVID-19)患者が確定され, 国内 外で大流行する中, 医療現場は COVID-19 患者への対応に追われることになっ

—Key words—  
愛知県アレルギー疾患医療拠点病院, 診療連携体制, MINERVA

\* Kayoko Matsunaga: 藤田医科大学 医学部 アレルギー 疾患対策医療学 教授

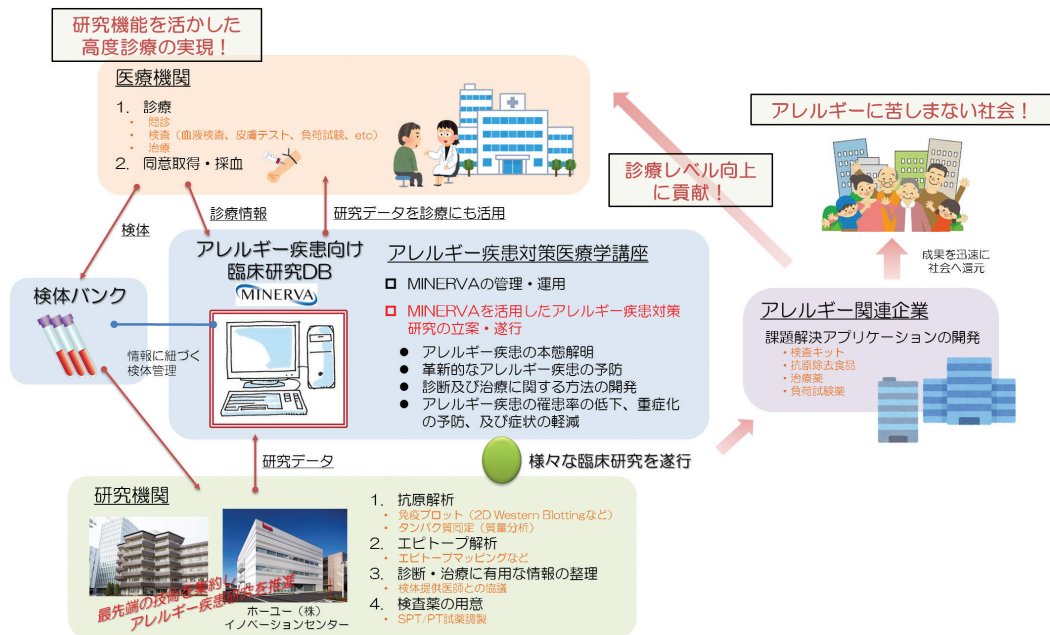


図1 MINERVA システムを軸としたアレルギー疾患対策の全体像

た。特に呼吸器内科医は重症患者の対応に迫られ、耳鼻科医、小児科医をはじめ、アレルギーの分野でも、COVID-19による影響は大きいものがあつた。一方、舌下免疫療法、分子標的薬・生物学的製剤等の新薬の開発が進み、アレルギー疾患の治療は大きく変化してきた。COVID-19への対応は、多職種連携の在り方にも変化を与えたことと思う。

そこで、この特集では、この激動の5年間に6つのアレルギー疾患医療拠点病院で、アレルギーの診療やその仕組みがどのように変わったのか、どのような活動ができたのかを振り返っていただき、また、その中で成し得た診療のトピックスについて紹介していただく特集を企画させていただいた。

### Ⅲ. アレルギー疾患対策医療学講座の活動

筆者は藤田医科大学 医学部 アレルギー疾患対策医療学講座(ホーユー株式会社寄附講座)を2015年4月に開講し、2016年4月に専任の教授となり、2024年3月で、その役割を果たし閉講する。本講座は、アレルギー疾患対策基本法にその名称の由来があり、アレルギー疾患で困

っている患者のために、原因アレルゲンを解明し、診断および病態把握のための検査方法を開発し、発症予防の対策について研究してきた。藤田医科大学で学内共同研究を推進するとともに、国内多施設との共同研究、さらには海外との共同研究をすすめてきた。

本講座は、臨床と基礎研究のHubとなり、「プロテオミクス手法による各種アレルギー疾患の要因解析」(研究代表医師：筆者)を行い、食物アレルギーを中心に、即時型アレルギーの新しい原因抗原の同定、重症となる抗原の検索等を行ってきた。筆者らは、より効率的な臨床研究の遂行を目的に、研究データと臨床情報の俯瞰的な分析を可能としたアレルギー疾患向け臨床研究システム「MINERVA」を開発し稼働している。MINERVAは、①産学を含む多施設共同研究に対応し、②最新の倫理指針や個人情報保護法に準拠したセキュリティを担保しつつ、③臨床情報と研究データが効率的に解析できる、徹底した個人情報の管理を行いながら、臨床と基礎研究とを連携できる仕組みになっている<sup>2)</sup>。愛知県アレルギー疾患医療拠点病院は、すべてMINERVA共同研究施設である(図1)。

特に、藤田医科大学医学部総合アレルギー科、小児科、あいち小児保健医療総合センターとの共同研究では、抗原解析を患者治療・生活指導に活用し論文として公開してきた<sup>3,13)</sup>。

また、遅延型のアレルギーである接触皮膚炎の研究も、講座の主要なテーマであり、AMEDの研究成果として一般社団法人SSCI-Netを設立し、化粧品等による皮膚の健康被害の最小化を図ってきた<sup>14)</sup>。同時に、AMEDの研究として、特定臨床研究(jRCTs041180105)「化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究」を行い、接触皮膚炎の原因アレルゲンの試薬を調製し、必要な施設へ送付し、その結果をデータベース化することで、全国の皮膚科施設のアレルギー診療を均てん化しつつ多施設共同研究を実行してきた。

## おわりに

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院6施設における活動とトピックスの特集の序文として、筆者の講座の活動を紹介した。今、世界に目を向ければ、武力による人道被害が拡大し続けている。この中であって、アレルギーを持っている人々はどうか過ごしているのか。平和な国に住み普通の暮らしができている私たち医療者の役割もさらに大きくなっていると感じる。

## 利益相反

筆者はホーユー株式会社の寄附講座に所属し、同社より共同研究費の提供を受けていることを申告する。

## 文献

- 1) 愛知県ホームページ：愛知県アレルギー疾患医療拠点病院 (<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/allergy-base.html>)
- 2) 松永佳世子：MINERVAによる食物アレルギー統合的研究. アレルギーの臨床 2019；3531-535.
- 3) Matsui T, et al：Allergic reaction to Hyperlasion Schmitz (Diptera：Sciariidae). Allergol Int 2023；72：604-606.
- 4) Nakamura H, et al：Analysis of allergens in corn-dependent exercise-induced anaphylaxis. Ann Allergy Asthma Immunol 2019；123：103-105.
- 5) Kubota S, et al：The clinical cross-reactivity and immunological cross-antigenicity of wheat and barley. Allergol Int 2022；71：505-511.
- 6) Hamada M, et al：Cross-antigen analysis for allergies to multiple legumes (azukibean, runner bean, white pea bean). Allergol Int 2023；72:182-184.
- 7) Shimojo N, et al：Fish collagen as a potential indicator of severe allergic reactions among patients with fish allergies. Clin Exp Allergy 2022；52:183-187.
- 8) Aoki Y, et al：Alpha/Beta Gliadin MM1 Is a novel antigen for wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis. Int Arch Allergy Immunol 2023；184：1022-1035.
- 9) Sato N, et al：Antigen analysis of patients with gastrointestinal symptoms resulting from immediate allergic reactions to mushrooms. Allergol Int 2021；70：382-385.
- 10) Shimojo N, et al：Occupational fish allergy caused by percutaneous sensitization with  $\alpha$ -actinin-3. Contact Dermatitis. 2017；76 :322-323.
- 11) Suzuki K, et al：Contact urticaria caused by carmine-containing eyeshadows；the causative allergen is carminic acid rather than CC38K. Contact Dermatitis 2021；84：468-469.
- 12) Kuwabara K, et al：Serological analysis of sensitization in allergic bronchopulmonary aspergillosis：a study on allergen components and interspecies relationships. J Asthma 2020；57：610-617.
- 13) Suzuki K, et al：Nattokinase (Bac s 1), a subtilisin family serine protease, is a novel allergen contained in the traditional Japanese fermented food natto. Allergol Int 2023；72：279-285.
- 14) 松永佳世子：化粧品による皮膚障害のリスク低減と原因究明のためのSSCI-Netと関連研究. 日香化粧品会誌 2023；4：97-107.